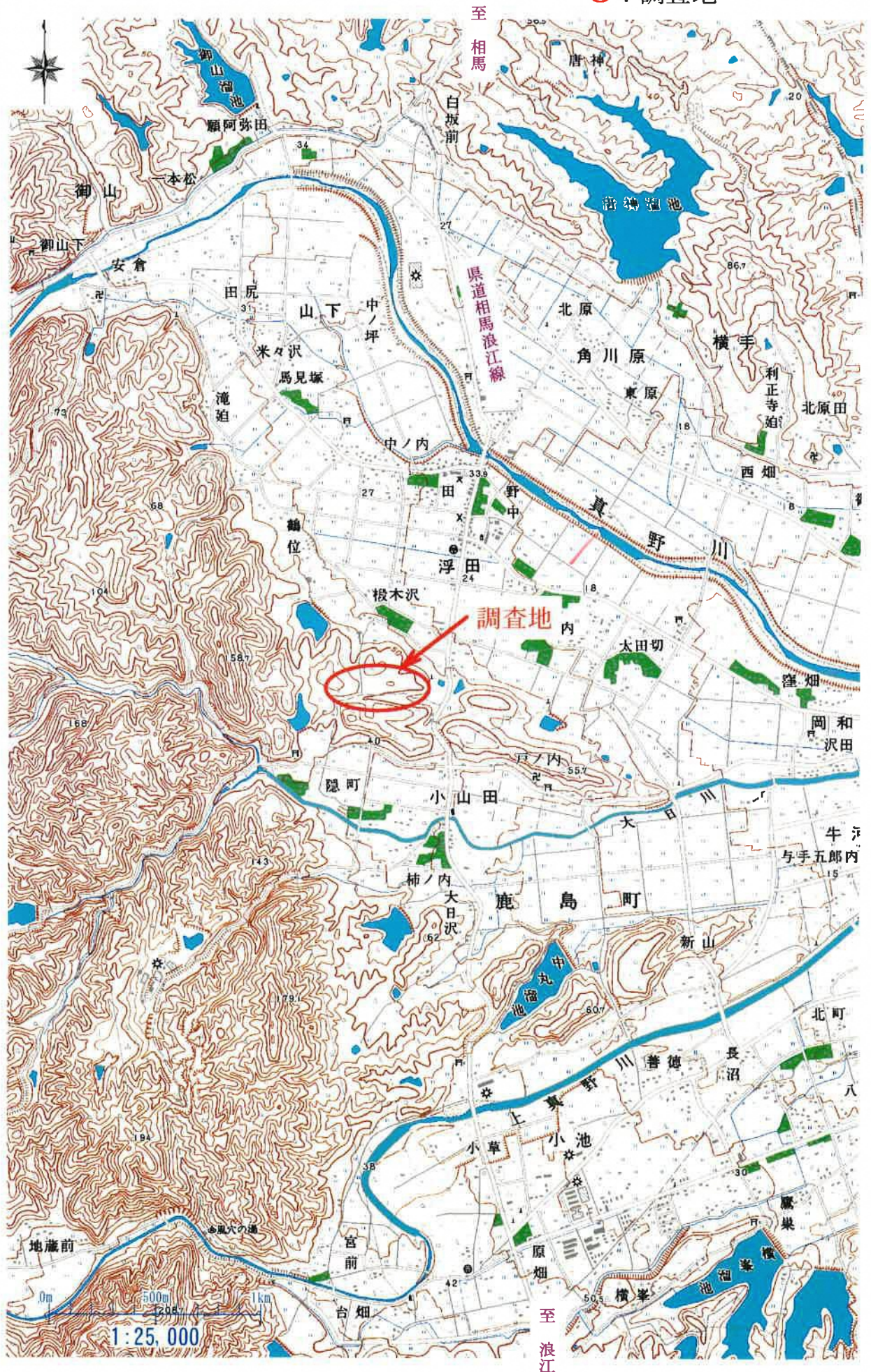


scale=1:25,000

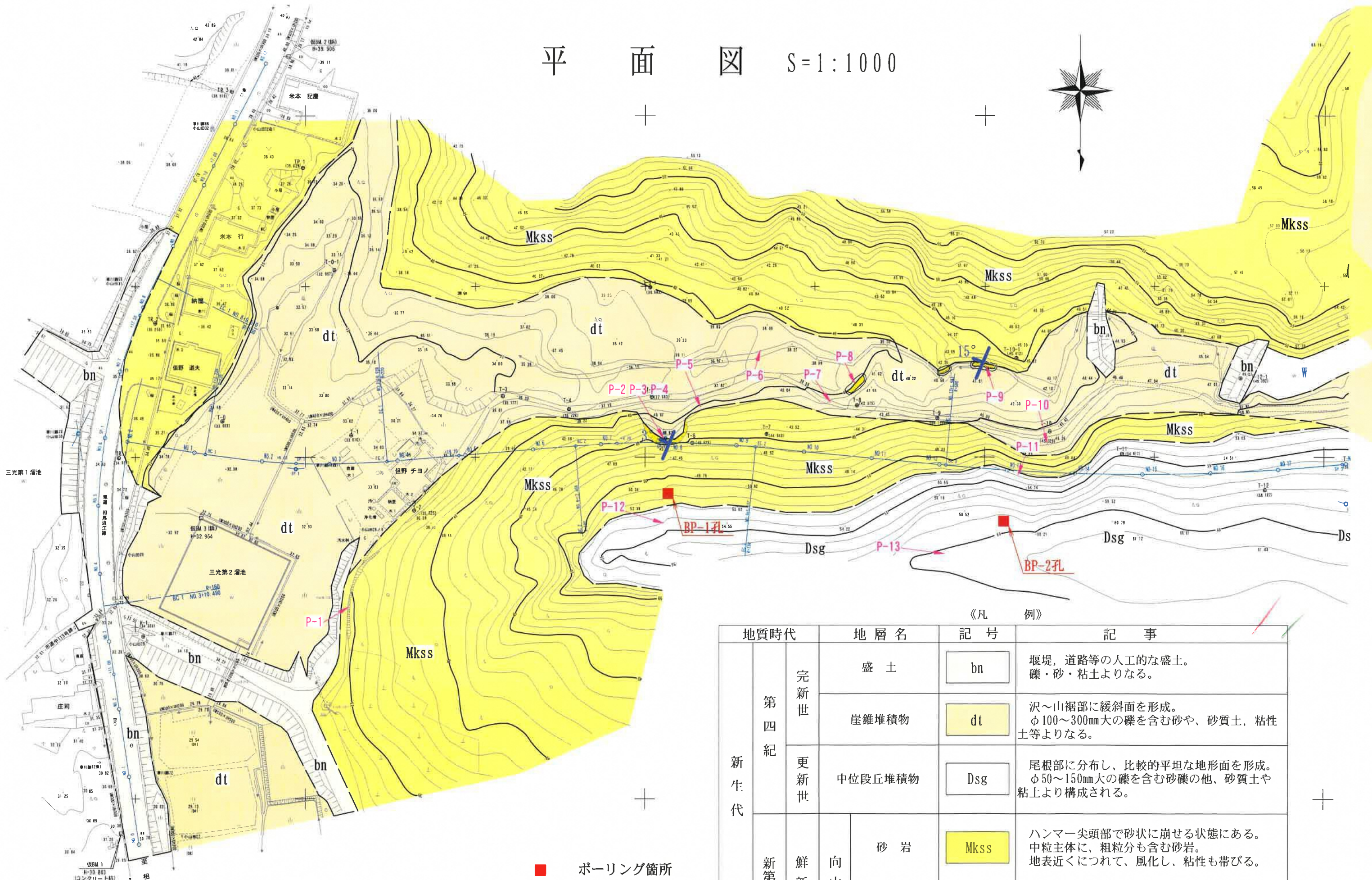
調査地位置図

○：調査地



「国土地理院刊行：数値地図25000 (地図画像) 『福島』より引用」

平面図 S=1:1000



- ボーリング箇所
- 3° 地層の走向・傾斜
- P-□→ 写真撮影箇所

《凡 例》

地質時代			地 層 名		記 号	記 事
新 生 代	第 四 紀	完 新 世	盛 土		bn	堰堤、道路等の人工的な盛土。 礫・砂・粘土よりなる。
			崖錐堆積物		dt	沢～山裾部に緩斜面を形成。 φ100～300mm大の礫を含む砂や、砂質土、粘性土等よりなる。
		更 新 世	中位段丘堆積物		Dsg	尾根部に分布し、比較的平坦な地形面を形成。 φ50～150mm大の礫を含む砂礫の他、砂質土や粘土より構成される。
	新第三紀	鮮 新 世	向 山 層	砂 岩	Mkss	ハンマー尖頭部で砂状に崩せる状態にある。 中粒主体に、粗粒分も含む砂岩。 地表近くにつれて、風化し、粘性も帯びる。
				泥 岩	Mkms	新鮮部分は、暗青灰色の固結した軟岩であるが、 風化すると褐色を帯び、粘土化する。 間に、亜炭を挟在する。

第 4 章 調査・試験の結果

4.1 ボーリング調査結果

ボーリング結果については、巻末資料の『ボーリング柱状図・コア写真集』
に示す通りで、以下、各孔の地層区分毎の状況について述べる。

《BP-1 孔》

測点位置：測点 No. 8 の右 15.0m

孔口標高：G H=51.55m

確認長：Dep=11.43m

孔内水位：確認されず

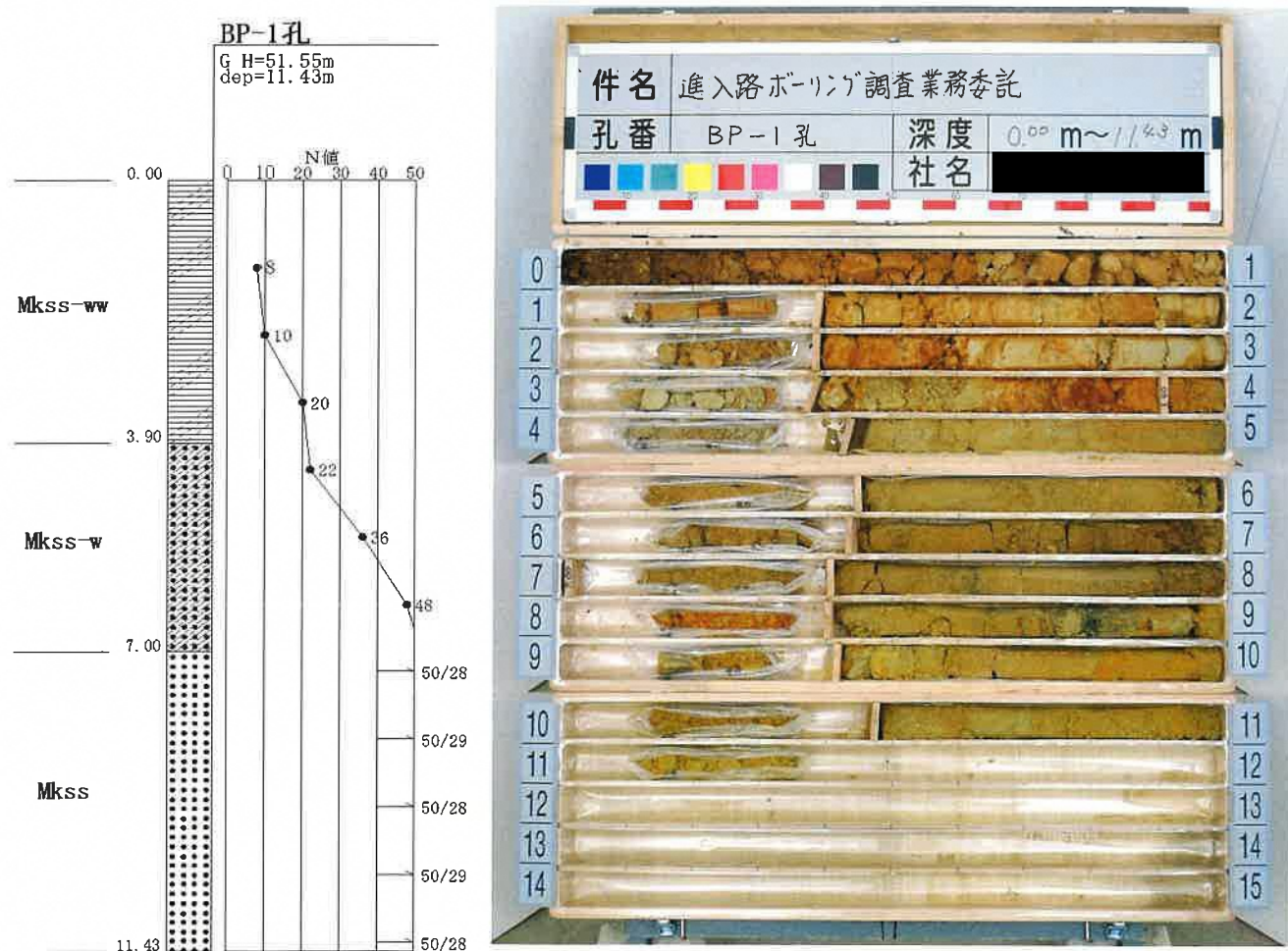


図 4.1.1 柱状図とコア写真 (BP-1 孔)

◎Mkss-ww：強風化砂岩(0.00m～ 3.90m)

土質的に固結したシルト質粘土状を呈し、深度 0.15m まで植根を混入する。

所々、砂分も混入し、深度 3.70～3.90m 間には、亀裂顕著な泥岩片を含む。

N 値は、8～20 回と“中位～非常に固い”コンシステンシーで、下尺につれて固結度を増した状態にある。

◎Mkss-w：風化砂岩(3.90m～ 7.00m)

砂状コアとして採取され、中粒砂主体に、細砂分を含む状況にある。

N 値 22～48 回と“中位～密な”相対密度にあり、下尺につれて締まった状態となる。

◎Mkss：砂岩(7.00m～11.43m)

非常に締まった状態にあるが、コアは指圧にて容易に砂状に崩せる。

深度 8.80m 付近に暗黒灰色の炭化物を 3～5 cm の厚さで挟在している。

また、深度 8.90m 付近に 6 cm の泥岩を挟在する。

N 値は、50 回以上が連続し“非常に密な”相対密度にある。

《孔内水位》

ボーリングで確認された孔内水位は、確認されなかった。

《BP-2 孔》

測点位置：測点 No. 13 の右 15.0m

孔口標高 : $G H = 59.34m$

確認長: Dep=13.45m

孔内水位：確認されず

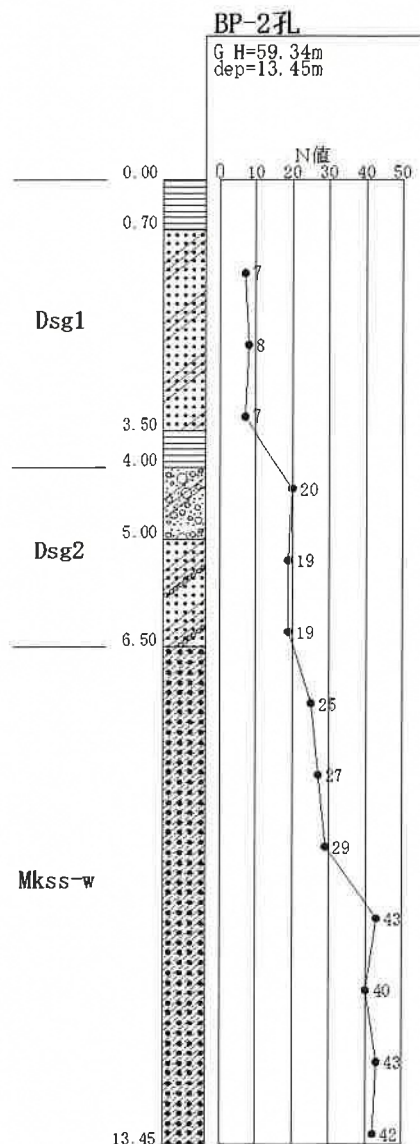


図 4.1.2 柱状図とコア写真 (BP-2 孔)

◎Dsg1：中位段丘堆積物-上部（0.00m～4.00m）

深度0.00～0.70m間、若干の砂分を混じえる粘土で粘り気を有する。

深度0.70～3.50m間、粘土質砂で所々粘土分を多く含み、粘り気を有する。

深度3.50～4.00m間、固結した粘土で強い粘り気を有し、若干の細礫も含まれている。

N値は、7～8回と、“緩い”相対密度にある。

◎Dsg2：中位段丘堆積物-下部（4.00m～6.50m）

深度4.00～5.00m間、粘土質砂礫で通常φ5～30mm（最大φ60mm）の亜角礫を30～50%不規則に混入している。

深度5.00～6.50m間、礫混じり粘土質砂で、φ5～40mmの亜角礫を20～30%混入している。

N値は、19～20回と“中位”の相対密度にある。

◎Mkss-w：風化砂岩（6.50m～13.45m）

砂状コアとして採取され、中粒砂主体に、粗砂分を含む状況にある。

深度8.80～9.60m間は、粗粒の石英砂主体に、φ3～5mmの細礫も点在している。

深度12.50～12.70m間に、泥岩を挟在し、その境界面は0～10°方向である。

N値は、25～43回と“中位～密な”相対密度にある。

《孔内水位》

ボーリングで確認された孔内水位は、確認されなかった。

4.2 標準貫入試験結果

標準貫入試験から得られた N 値の結果を、表 4.2.1 N 値総括表として整理する。

表 4.2.1 N 値総括表

土層区分	BP-1 孔	BP-2 孔	N 値 分 布 範 囲	平均 N 値
Dsg1 (中位段丘堆積物 -上部)	—	7, 8, 7	7~8	7
Dsg2 (中位段丘堆積物 -下部)	—	20, 19, 19	19~20	19
Mkss-ww (強風化砂岩)	8, 10, 20	—	8~20	13
Mkss-w (風化砂岩)	22, 36, 48	25, 27, 29, 43, 40, 43, 42	22~48	36
Mkss (砂 岩)	50/28 (54) ※1 50/29 (52) ※1 50/28 (54) ※1 50/29 (52) ※1 50/28 (54) ※1	—	(52) ~ (54)	(53)

※1：砂岩の N 値 50 回以上の部分については、換算 N 値をカッコ内に示し、これは 30cm の貫入量に対する打撃回数。

但し、換算 N 値は 300 を上限とする。